

## 令和5年度第1回 大野市水循環推進協議会 議事概要

日 時：令和6年3月26日(火)  
午後2時00分～午後3時50分  
場 所：文化会館 鳳凰の間

### 1. 開会

○森会長あいさつ

### 2. 議事

大野市水循環基本計画の令和5年度実施状況について

○資料1と2及び3に基づき、施策の実施状況等について説明【事務局（大野市）】

#### 【主な質疑・意見】

- ・水資源保全全国自治体連絡シンポジウムは、次年度開催予定ということであるが、進捗状況を教えていただきたい。  
→（事務局）連絡会の事務局である長野県佐久市と随時連絡をとり、シンポジウムの準備を進めている。全国で大体130団体が参加する予定である。冒頭に国の水資源部の方から情報提供いただいた後に、大野市水循環アドバイザーをお願いしている中野孝教先生に大野市の地下水保全の状況について報告をしていただく予定。その後、大野市の事例発表や団体の事例発表、パネルディスカッションを検討している。
- ・日程はいつごろか。  
→（事務局）1日目が10月3日の午後から、シンポジウム形式で行い、2日目に大野市内の現地視察を行う予定。
- ・雨水貯留タンクが公民館などの施設にある。パネルなどをつけて、どういう意味でこれを設置しているということを示すなどの一工夫が必要だと思う。  
→（事務局）皆さんのお目につくように表示を考えたい。
- ・災害気候変動地下水障害のところで、防災井戸などの設置検討とあるが、この前の能登半島地震でも水が問題になっている。先行事例の把握に向けた情報収集となっているが、具体的に分かることを教えて欲しい。  
→（事務局）正式な形での取り組みはまだ踏み込んでいないので、情報収集に努めたいと思っている。
- ・水田湛水を昭和53年度からずっと続けている。令和3年度から40ヘクタールに拡大して調査検証して、今後の方針を決めるとなっているが、大体の効果のデータは出ているのか。  
→（事務局）令和3年度については、時期が11月25日から2月末までということで、

期間が短かった。令和4年度、5年度は、10月1日から2月末までの5か月行っている。令和3年度については、湛水を始めた時期に大雨が降り、効果が湛水によるものかの見極めが難しい年度だった。令和4年度は若干水位が高くなったというような記録が残っている。気象条件もあるが、今後も同様な期間・面積ですということ、検証を続けていきたいと考えている。

- ・本願清水イトヨの里を通じた展示物、イトヨの生息地の保全とについて、アユモドキやイトヨの里市民講座で来ていただいた亀崎先生の亀の保全など、イトヨ以外の色々な生き物もこの自然の触れ合いの中に入れて、もっと水環境のよさが伝えられると思う。

→（事務局）令和6年度は貴重な天然記念物生物について他の施設から借用させていただき、展示することを検討している。

大野市水循環基本計画の令和5年度実施状況について

○資料4に基づき、施策の実施状況等について説明【福井県奥越土木事務所】

#### 【主な質疑・意見】

- ・浚渫について、アユなどの生き物に対しては時期をずらすという対応はしているのか。  
→（奥越土木）例年、川の工事を実施する前に大野市の漁業協同組合と調整・協議しており、アユや他の影響が生じないような時期に実施するというように努めている。
- ・浚渫をすると確かに綺麗になっている。清滝川の西側に木瓜川がある。木瓜川の上の方に土砂がたまってきており支障がでていいる。下流の方で浚渫が行われ、きれいになったので、上流の方もやっていただけると有り難い。  
→（奥越土木）木瓜川も浚渫を実施している。限られた予算となるので、全てできるというわけではないが、地元の方々の要望や実際に河川で阻害となっている土砂の状況などを調査をして、限られた予算の中で、精一杯実施していきたい。

大野市水循環基本計画の令和5年度実施状況について

○資料5に基づき、施策の実施状況等について説明

【国土交通省九頭竜川ダム統合管理事務所】

#### 【主な質疑・意見】

- ・特定外来種のコクチバスについて、引き続き調査や駆除をしていただきたい。このコクチバスの他に九頭竜ダムにウチダザリガニもいると聞いている。他の特定外来種の駆除について、今後どのように行っていくのか、また実績がありましたら教えていただきたい。  
→（ダム統管）九頭竜ダム湖にはウチダザリガニといった特定外来種もいる。ただ、一

番大きな問題となっているのはコクチバスの駆除だと考えている。今年度から取り組みを始め、国土交通省の取り組みをさらに拡大していきたい。また、色々な方々と協力しながら取り組みを発展していければと思う。

大野市水循環基本計画の令和5年度実施状況について

○資料6に基づき、施策の実施状況等について説明【大野の水環境ネットワーク】

**【主な質疑・意見】**

- ・上赤根橋から撮影された草はツルヨシのように思う。これは流水の少ないところにどんだんはびこってしまうので、手でのけるのは不可能である。これも場合によっては、浚渫のご検討いただく必要があると思う。  
→（奥越土木）草なので土砂に比べると洪水時に阻害する影響は少ないと思うが、全く阻害しないというわけではないので、浚渫を行う必要がある。ただ、限られた予算でございまして、必要に応じて行っていきたい。

3. 話題提供

(1) 「国の取り組みについて」

国土交通省 国土技術政策総合研究所 河川研究部

水循環研究室 竹下 哲也 オブザーバー・・・・・・・・・・【資料7】

(2) 「令和6年能登半島地震被災地における井戸利用について」

大阪公立大学 遠藤 崇浩 オブザーバー

**【主な質疑・意見】**

- ・井戸水をくみ上げるのは、電気エネルギーが必要だと思うが、その地域では発電機を常備していたということか。  
→（遠藤オブザーバー）電気がこないとくみ上げられないというのが、井戸水の限界である。七尾市の場合、幸いなことに停電が少なかった。過去の国交省がだしている「日本の水資源」や日本水道協会が「水道のあらまし」という本を出しているが、過去の断水被害一覧では、大体50件か60件くらい載っている。私は、その過去の断水の停電復旧時期とその断水期間を調べているが、必ず電気の方が先に普及する。これは当たり前の話なのかもしれないが、電気がこないと水道もまず使えない。なので、先に電気が普及して、しばらくたった後、水道が復旧するか、電気と水道が同時に復旧するかのどちらかのパターンとなる。すぐには使えないかもしれないが、電気が復旧してもまだ水道が使えないというギャップ期間が生まれるという可能性がある。電気は使えるけど水道がこないという状況で、井戸水があれば水道の代わりとして使えるということになる。電気がないと動かないというのが井戸水の課題ではあるが、そのギ

キャンプ期間を考えると、やはり防災井戸はあった方がいいのではないかとというのが現在の私の考えである。

- ・自噴というのは便利だと思う。
- (遠藤がザバー) 七尾市でも自噴井戸がいくつかあった。商店街のところに自噴井戸があって、生活用水として使って下さいという看板があった。おそらく周辺で使われたのではないかと考えている。
- ・市としても日常的な防災対策として、具体的に言うと、水質検査キットがすぐ配布されるなどの安心して使える体制が必要だと思う。

#### 4. その他

##### 【その他のご意見】

- ・地下水量が減っている事に対していろいろなところで取り組んでいるが、地下水位が上がっている傾向があまり見られない。真名川の水量が多くなったら地下水位が上がると言われているが、誰も検証していない。湧水というのを復活したいと言っても、なかなか実現できてないのが現実なので、その真名川に通水するすべを市や国などで考えていただけないかということの一つ提案したい。
- (九頭竜ダム統管) 何度かそういうお話をいただいているが、ダムからの水というのは利水者の方々がいて、簡単にその水量を増やすということはできないので、その辺りは私たちだけではなく、全体で話を進めていく必要があると思っている。
- (事務局) 大野市水循環基本計画では、資料として御清水観測井や春日観測井の年平均地下水位の推移を記載している。昭和 50 年代の春日公園観測井の水位は 3~4m の間で、確かに下がってきているが、平成 21 年度あたりに水位が戻ってきているというような結果もでていいる。関係者の努力や施策も少しずつ効果が出てきていると思うので、今後も注視して続けていきたい。

- ・「田んぼダム」の簡易シミュレーションプログラムについて

【農林水産省北陸農政局農村振興部より情報提供】

##### 【主な質疑・意見】

なし

閉会